



# 校長室だより

おおさか しりつたかどのしょうがっこう  
大阪市立高殿小学校

06-6951-3344

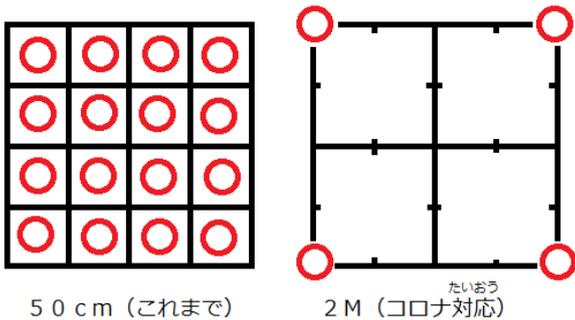
6月の月目標は、「**すすんであいさつをしよう。**」です。……「あいさつ」というと、児童朝会で話した、「**オアシス言葉**」を思い出しますね？ もう一度確認しましょう。「**おあしすどこさ**」でしたね。

「おはようございます。」 「ありがとう。」 「しつれいします。」 「すみません。」  
「どうぞ。」 「こんにちは。」 「さようなら。」 場面場面で、適切に使えるようになりたいです。

## 新型コロナウイルス感染症に対応した、水泳の安全指導について(方針)

今年度の水泳指導については、スポーツ庁、教育委員会より「対策を講じた上で、水泳授業の実施について検討してください。」と示され、スポーツ庁作成の「コロナ禍における体育、保健体育の教師用指導資料」の中でも、感染症対策を踏まえた水泳指導の実施に関する具体的方法や留意点が示されています。本校では、これを参考にして水泳の安全指導を検討いたしました。

プールサイドでの子どもたちの間隔



- ① 更衣場所での感染を防止するため、少人数ずつ、十分な換気をしながら、間隔をあけて更衣する。
- ② プールへの移動や、プールサイドでの子どもの動きは、一方通行で計画する。
- ③ プールへの入水時は、マスクを着用しないので、対面にならないようにする。
- ④ 子どもと子どもの間隔は、スポーツ庁の指示通り、2 M を確保する。(左の図を参考にしてください。)
- ⑤ 泳ぎ終わった時点で、後から泳いでくる子と密が生じないように、入水時の間隔はさらに大きくとる。(下図です。)

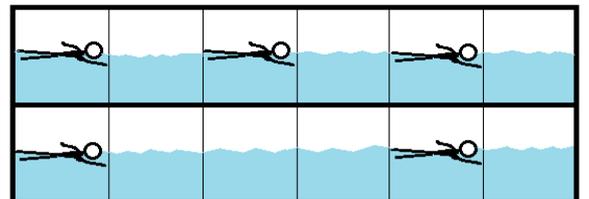
これらの安全対策を確実に実施するために、検討したところ、これまでの2学級合同や学年で一斉に指導していた方法では、感染リスクが回避できないことがわかりました。したがって、三密を回避する手立てを確実に実行するため、単学級での実施を基本として、水泳を行うことが適切であると判断いたしました。

新型コロナウイルス感染症は、ウイルスの変異により、感染力が強くなっていると報道され、屋外でも、マスクを外した状態で、クラスターが発生しています。水泳では、マスクの着用ができません。学校で感染し、家庭にウイルスを持ち込むようなことがあってはなりません。高殿小学校では水泳で校内感染が起きないように、丁寧に感染症対策を講じてまい

ります。以上のことから、本校のプール・更衣設備、学級数、週当たり授業時間数にあてはめて、実施可能な学級数を計算したところ、全学年・全学級での水泳実施は、困難であると判断いたしました。したがって教育課程上、今年度中に履修が必要な、2年生、4年生、6年生において、水泳の授業を実施いたします。

1年生、3年生、5年生の皆さんは、来年度に履修します。待っていてください。新型コロナウイルス感染症を拡大させないためとはいえ、このようにみなさんに迷惑をかけてしまうことになりました。今年度は、このようにいたします。どうぞよろしく願いいたします。

プール入水後の間隔はより必要です。



(高殿小学校長 梅原 直人)

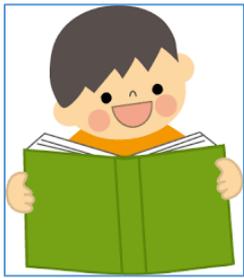
# 家庭学習の充実について(保護者の皆様に、ご協力をお願い)

前号の校長室だよりでも紹介いたしましたが、本校では家庭学習をサポートするために、次世代教育推進機構が運営している「スタディー・プラネッツ」のWEBプリントの配信を契約しています。学校ホームページに、「スタディー・プラネッツ」のURLを掲載しています。ここからインターネット経由で、プリントサイトのログイン画面にアクセスしてください。なお、ログイン画面をブラウザのお気に入り登録しておく、次回以降のアクセスが簡単にできます。ログインに必要な契約IDやパスは、お子様を通じてお手紙で通知していますが、ご不明な点がありましたら、学校までお問い合わせください。



掲載プリントは、1、2年生は国語と算数。3～6年生は、国語、算数、理科、社会の4教科です。スモールステップによる段階的な学びや、類似した問題による反復学習ができるようになっています。基礎の内容から、発展的な内容、さらに高度な内容までの問題構成がされていますので、負担なく確かな学力の定着が期待できます。お手数とは存じますが、家庭でプリント印刷をして学習したり、自主学習ノートに問題を写したりして学習することができます。毎日少しずつ、計画的に学習するのが、長続きのコツです。

なお家庭学習の励みになればと考えて、**在学する学年の「スタディー・プラネッツ」の全プリントの学習を達成した児童は、その頑張りをたたえ校長表彰を行います。**現在、家庭学習記録用の達成カードを作成中です。後日、案内とともに配布しますので、家庭でのご活用をお願いいたします。



## 教科書の「音読」の工夫について紹介します。

宿題で出される教科書の音読について、家庭で楽しみながら、さらに学びを深める方法がありますので、紹介します。宿題として出題された範囲を、詰まらないように注意して読むのを、「すらすら読み」と言います。正確に、大きな声で、気持ちを込めて、といった言葉かけをしていただいていると思います。

**【まる(「。’)読み】**・・・子どもとペアになって、一文ごとに、まる(「。’)で交代して、交互に音読をします。きっと、楽しいですよ。ぜひ、やってみてください。

**【まる・てん読み】**・・・子どもとペアになって、まる(「。’)と、てん(「、’)で交代して読みますが、交代するときに、間を空けてはいけません。スーッと一人が読んでいる感じで、読み継ぎます。少し難しくなりますが、楽しいですよ。

**【つぶやき読み】**・・・今度は、子どもだけで、筆者と読者の立場で、一人で二つの役割をしながら読んでいきます。音読は筆者として、読者に説明するつもりで読みます。文章の切れ目で、読者の役割で「へえ～」「なるほど、～だよな。」というように、文章の内容に合わせてつぶやきます。

子どもがつぶやいた後に、「そうか、〇〇ちゃんは、～とおもったんだね。」とか、「今のコメント、よかったね。同意見。」というように、つぶやきをつなげます。きっと、大いに盛り上がると思います。つぶやき読みは、すらすら読みとは異なり、「つぶやき」で表すために、読むと同時に内容を考えながら音読をしていることになります。より、高度な音読と言えます。きっと楽しい充実した家庭学習ができますよ。